

# ○ 壹岐海峡の諸島の特異な名稱は植物名に由來するか (前川文夫)

Fumio MAEKAWA: Peculiar island names probably derived from ancient plant names.

佐賀縣東松浦郡の北端呼子を中心にして、壹岐海峡には面白い且つむずかしい呼名の島が數個並んでいる。博多から出る對馬通いの定期船が壹岐郷之浦港に入る前、半時間程の間これらの諸島が鼻先に並んでいて壹岐との間が存外狭いのを感じさせる。島の名は東から神集(カシワ)、加部(カベ)、加唐(カカラ)、松(マツ)、馬渡(マグラ)である。この内松は月並だが他は甚だ凝つた名である。これらの名が古いことは例えば神集島は延喜式に肥前柏島牛牧として、又加唐島は書紀雄略紀に百濟加須利君婦、於筑紫各羅島産兒。仍名此兒曰島君、として載つているのでわかる。これらがまことに特異な島名の群であることは小川琢治：日本群島にも指摘されているが、起源には觸れていない。私はこれは夫々の島に著しかつた樹木の名がつけられたものがその後意味を失うに及んで、種々の宛字を受けたものと考える。即ち

カシワ *Quercus dentata* のカシワとも考えられるが寧ろ柏(ハク)の島をカシワとよんだもので、柏即ち *Juniperus*、こゝでは恐らく對馬及び壹岐(殊に北端の勝本港の内外に美しい群落のあるイワダレネズ (*Juniperus pacifica* Nakai) が分布していたのではなからうか。古く牛の牧であつたことなどからみてその傾斜面や海岸砂場に本種の自生は可能性が高い。

カベ これはカヤの古名カヘであつて、小さい島としては珍らしくカヤの遺存があつたのに依るだろう。

カカラ これは *Smilax* である。サルトリイバラの系統にカカラの古い名があることについては津山博士が詳しいが、この島のは單なるサルトリイバラが甚だ多かつたのか、或は別の特殊な *Smilax* が生じていたものかであろう。

マツ 今は北九州の海岸近くは殆んどクロマツの二次林だが、古く多くの島の中にどこにもあるマツの名をつけたのは、却つてこの島以外には松がなく、他の島々はすべて常緑闊葉樹林か又は牧場的な草付の島かであつたことを示す反證であるとみたい。

マグラ これは *Tilia* の古名である。現在の分布状態からみてこれはヘラノキ (*T. kiusiana*) が澤山にあつた證據であろう。ヘラノキに今のところマグラの方言は見出されないがどこかに残つていたら面白いと思う。

以上比較的近い般圍に集つてゐる特異な島の名をその地方にあると見られる植物の古名と結んで考えられることを述べ、これが眞ならば、古く植物と生活との關連が深かつた一つの事例であるとしてこゝに記して置く次第である。